

本年度は「心機一転」をテーマにして、皆様とともに明るい未来を考える本を紹介いたします。

今号は「心の声」に関する4冊の紹介です。

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



**こころの距離
結婚恐怖症候群!?**

2002年 文芸社
長月 もも (著)

[300-2]

マリコには愛情をそそいでくれる優しい両親だったが、父と母が罵り合う声を聞き、父が母に暴力を振るう日常。幼いころのマリコの心の中は悲しみの嵐が渦巻いていた。大人になったマリコは、結婚の束縛を恐怖に思う。サトシに求婚され、逃げ別れたマリコ。時を経て、いつもサトシは不安から救ってくれることに気がつく。恐怖を克服したマリコはすべての子どもに伝えたいと思う。自分の将来に希望を持つようにと。

子どもは親や生きる環境を選べないが、大人になれば、ある程度は自分で選択できるのだ。(ぽと)



**マイ・レジリエンス
トラウマとともに生きる**

2013年 梨の木舎
中島 幸子 (著)

[700-8]

著者自身が「デートDV」にあい、加害者から逃れて25年経ってもトラウマに苦しみ、それらと向き合うためにカウンセリングに通い続けている。今は自身の経験や学んだことを元に、「レジリエンス(回復力・復元力・元気という意味)」という団体で、講演や支援活動をしている。被害者は、自ら立ち直る力を持ち、自分らしさの輝きを持つ人として「☆(ほし)さん」と呼ばれる。「☆さん」は何気ない言動にも、また深く傷つくことがある。被害者の苦しみを知ることにより、もっと優しい自分になりたい。(ルナ)



**デンマークの女性が輝いているわけ
幸福先進国の社会づくり**

2020年 大月書店
澤渡夏代ブランド、
小島ブンゴード孝子 (著)

[1000-1]

デンマーク人男性と結婚し、妻・母・女性として約半世紀、幸福の国デンマークに暮らす著者たちから、日本の女性へのエールが届いた。海外在住だからこそより客観的に日本の実情や問題点が見える。

社会参画が一步進んだデンマークの女性が、社会でどう生き、支える社会システムがどうなっているか、デンマーク人がどう育てられ育っていくのかを、女性運動の歴史やデータ、著者二人の経験、働く女性たちへのインタビューも交えて書かれていて、読みやすい。

女性がよりよく生きる道が見えてくる。(ルナ)



会えないパパに聞きたいこと

2009年 太郎次郎エディタス
新川 てるえ (著)
山本 久美子 (絵)

[2000]

アルバムで見るだけのパパ。「パパに会いたい？」と聞かれても、ママが悲しむと思ったから「会いたくない」と答えたわたし。でも本当はパパに会っていろいろ聞きたかったの…。心に「なぜ？」を積もらせる幼子と、必死で生きるあまりに余裕をなくし、我が子の気持ちに気づけなくなってしまった母親。本書はそんな母子が明日に向かって力強く進むための「道しるべ」にもなる絵本です。「パパとママの子どもに生まれてよかった」、「ありがとう」と語り合える時がくるまで、ほほえみ一つ重ねた今日を、どうぞ、大切に。(みっと)